

# 平成29年度MieMuの活動と運営の各戦略・戦術 内部評価結果・外部評価結果

計画期間(3年):平成29年度～平成31年度

三重県総合博物館(MieMu)が、長期にめざす姿(ビジョン)の実現に向けて、当面3年間(=計画期間)に戦略的に取り組むための計画とそのマネジメントのしくみを、以下のとおりとしています。

ビジョン	
<p>三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く水深2,000mの深海から標高1,700m近の山岳までも含んだ多様な自然環境をもち、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物種を育む日本列島の縮図のような自然を有している。この自然を背景に、伊勢・伊賀・志摩国と紀伊国の一部から成り立つ三重は、それぞれの地域で特色ある暮らしや歴史が育まれてきた。また、三重は古くから陸海の交通の要衝にあり、都に近く、信仰と商業の拠点をもつたことから、人・モノ・情報が集まり交流が生まれることで、東西文化の結節点となり、多様な文化を生みだしてきた。</p> <p>三重県総合博物館は、このような三重の多様で豊かな自然と歴史・文化について、県民・利用者の皆さんとともに総合力を発揮して探究し、保全・継承し、広くその意義を伝える。このことにより、三重の特徴と素晴らしさに気づき、多様な価値観のもとで、誇りをもって地域をより良くしようとする人々が集う活気ある社会の形成を目指す。</p>	

戦略目標	達成度	戦略を評価するための指標		評価結果		戦術	達成度	戦術を評価するための指標		評価結果	
		アウトカム(成果)	各戦略の内部評価概要	外部評価	アウトプット(結果)			アウトカム(成果)	内部評価	外部評価	
1 何度も利用していただくために、展示(基本展示・展覧会)を充実させます(展示)	4	リピーターの割合 目標値:50% 実績値:68%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・68%のリピーター割合を達成した。</li> <li>・各戦術についても、目標(アウトカム)を達成できた。</li> <li>・ただし、展覧会は小規模のものや他機関と連携したものを合わせて全10本と多く、過大な業務量となったほか基本展示の展示替えなどに課題が残る。</li> <li>・平成30年度については、トピック展・交流展を開催せず、業務の適正化に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を達成しているため、達成度4と評価した。</li> <li>・リピーターの獲得は進んでいるが、基本展示の展示更新及び展示解説の実施状況に課題がある。</li> <li>・各年度で目標値の設定を検討する必要がある。</li> </ul>	1 何度も利用していただくために、多様なテーマによる展覧会を開催します	4	展覧会の観覧者数 目標値:73,000人 実績値:79,411人	展覧会のリピーターの割合 目標値:50% 実績値:69%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・69%のリピーターを獲得できた。</li> <li>・生きもの、乗り物、考古学、スポーツと幅広い視点から三重を紹介することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を達成しており、達成度4と評価した。</li> </ul>	
					2 基本展示を何度も利用していただくために、展示の更新や解説などを実施します	3 ↓ 2	基本展示の観覧者数 目標値:87,000人 実績値:76,515人	基本展示のリピーターの割合 目標値:50% 実績値:56%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・56%のリピーターを獲得できた。</li> <li>・新たに3種類のワークシートを開発し、充実した。展示更新の回数も年間6回と他館と比較して少ない。</li> <li>・機器のメンテナンスも行き、展示を陳腐化させず、観覧者の観覧意欲を削がない対応を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトプットの目標値を達成していないため、達成度2とした。</li> <li>・展示更新ができておらず、展示解説の回数も年間6回と他館と比較して少ない。</li> <li>・機器のメンテナンスも行き、展示を陳腐化させず、観覧者の観覧意欲を削がない対応を求める。</li> </ul>	
					3 親子連れで博物館を楽しんでもらえるように、子ども体験展示室の利用を促進します	4	利用者数 目標値:80,000人 実績値:80,620人	入館者における子ども体験展示室利用者の割合 目標値:30% 実績値:33%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入館者の33%の方にご利用いただけた。</li> <li>・利用者層に合わせたコンテンツの充実、利用方法の検討が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を達成しており、達成度4と評価した。</li> </ul>	
2 博物館の存在を広く知っていただくために、積極的な広報を展開します(集客)	4	一般のMieMuの知名度(県政eモニターまたは県のキッズモニターのアンケートで実施) 目標値:75% 実績値:77%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・eモニターの結果から、当館の知名度は目標値以上となっており、前年度と比較しても大きな減少はなかった。</li> <li>・入館者90万人、100万人達成など、多くのメディアに取り上げられる機会を設けることができた。</li> <li>・文化交流ゾーンの各施設でも、相互に情報発信できた。</li> <li>・遠方の地域については知名度が低い傾向にあるので、今後も移動展示等の機会に広報する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を達成しており、達成度4と評価した。</li> <li>・今後も継続して情報発信に努めてほしい。</li> </ul>	4 メディアに報道してもらうため、メディア向け説明会や内覧会を行います	4	説明会・内覧会に参加したメディア数(通年累計) 目標値:20社 実績値:23社	参加したメディアの報道回数 目標値:20回 実績値:23回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全企画展で内覧会を実施し、各メディアへの情報提供を行った。</li> <li>・県政記者クラブだけでなく、地域情報誌等にも情報提供し、取材に繋げることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を達成しており、達成度4と評価した。</li> <li>・内覧会を行う曜日や時間帯について、参加しやすいのかメディア関係者に確認すること。</li> </ul>	
					5 博物館の活動を知っていただくために、ホームページ、ツイッター、フェイスブックなどを充実させます	4	閲覧数(トップページ累計) 目標値:310,000回 実績値:354,638回	シェアの件数、リツイート数 目標値:250シェア、2,000RT 実績値:296シェア、2,713RT	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各媒体ともこまめに更新し、旬の情報を発信することができた。</li> <li>・広報業務を経営戦略広報課に一本化することで、臨機応変に対応することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を達成しており、達成度4と評価した。</li> <li>・特にFacebookは充実してきた。</li> <li>・他の媒体も継続して発信して欲しい。</li> </ul>	
					6 県内の子どもたちに知ってもらうために、教育委員会と連携した広報を行います(チラシ配布の他、連携事業を含む)	4	連携事業への参加者数 目標値:100人 実績値:281人	高校生以下の観覧者数 目標値:70,000人 実績値:74,261人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各児童への企画展チラシ配布のほか、様々な連携事業や研修等で連携できた。</li> <li>・連携事業の中でも、盲学校への移動展示は特に高く評価したい。</li> <li>・県総合教育センターとも連携し、教員研修についても充実させて欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を達成しており、達成度4と評価した。</li> <li>・連携事業の中でも、盲学校への移動展示は特に高く評価したい。</li> <li>・県総合教育センターとも連携し、教員研修についても充実させて欲しい。</li> </ul>	
3 「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への県民・利用者の参画を促進します(連携)	4	参画者数(MP数・企業数・ボランティア数) 目標値:310名20社(H29) 実績値:311名23社・団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの方や企業等に、当館の活動に関わっていただくことができた。</li> <li>・企業との取組は、当館との信頼感が醸成され、長期会員が増加傾向にある。</li> <li>・一方で、ミュージアムパートナーやボランティアについては、新規会員の獲得や活動内容の充実等が課題になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を達成しており、達成度4と評価した。</li> <li>・いずれも新規会員の獲得とともに、既存会員へのフォローも大切にして欲しい。</li> </ul>	7 博物館を活用した学びを深めるために、ミュージアムパートナーと協働します	4 ↓ 3	登録者数 目標値:280人(H29) 実績値:272人	MP登録者のうち学びが深まったと感じた方の割合 目標値:60% 実績値:70%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館を活用した事業を活発に行い、一般入館者への事業でも協働できた。</li> <li>・成果発表会を来館者の多い8月に変更するなど、会員獲得に向けた運営が課題になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトプットの目標値を達成していないため、達成度3とした。</li> <li>・成果発表会を来館者の多い8月に変更するなど、会員獲得に向けた努力は評価できる。</li> </ul>	
					8 活動への企業の参画促進のために、企業との協働による事業を実施します	4	協働した企業数 目標値:20社 実績値:28社	協働した企業による協働に関する満足度 目標値:80% 実績値:100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーポレーション・デーをはじめ、各企業での講演会への講師派遣など様々な取組を行った。</li> <li>・パートナーシップ企業の従業員は2割引きで観覧できる仕組みは、企業の福利厚生としても有益であることをPRすべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を達成しており、達成度4と評価した。</li> <li>・パートナーシップ企業の従業員は2割引きで観覧できる仕組みは、企業の福利厚生としても有益であることをPRすべき。</li> </ul>	
					9 市民の参画を促進するために、ボランティア活動の活性化を図ります	4	登録者数 目標値:30人 実績値:39人	延べ活動回数 目標値:120回 実績値:178回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活発に活動することができた。</li> <li>・今後も活動内容の充実に向けて、メンバーと意見交換する仕組みや、学芸員とのコミュニケーションがとり易いような工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を達成しており、達成度4と評価した。</li> </ul>	

戦略目標	達成度	戦略を評価するための指標		評価結果		戦術	達成度	戦術を評価するための指標		評価結果									
		アウトカム(成果)		各戦略の内部評価概要	外部評価			アウトプット(結果)	アウトカム(成果)	内部評価	外部評価								
4 博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できるようにするために、収蔵資料及び地域の文化財等の保存・保全に注力します(資料の保全)	4	地域の保存・保全方法の改善内容・効果(保存分野の学芸員によるレビュー)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵庫内の定期点検・清掃を実施することができた。</li> <li>・地域の資料についても多くの相談を受けており、当館のシンクタンク機能が認知され、信頼を寄せられているものと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館内及び地域の資料について、保存・保全が適切に行われているため、達成度4とした。</li> <li>・定期点検・清掃については軌道に乗り、順調だと認められる。</li> <li>・地域の資料保全についても多数の相談について対応できたと評価する。</li> </ul>	10	4	収蔵庫の文化財害虫の捕獲数 目標値:0匹 実績値:0匹	ダメージを受けた資料点数 目標値:0点 実績値:0点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵後の清掃・点検について、毎月定期的を実施できた。</li> <li>・収蔵庫内の文化財害虫の発見・被害が無かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を達成しており、達成度4と評価した。</li> <li>・点検の定例化やチェックリストの整備を進めて欲しい。</li> </ul>								
												11	4	地域の文化財等を保全するために、相談窓口を用意し、指導助言を行います	指導助言件数 ※主に機関 目標値:12件 実績値:121件	指導助言に基づいて行動を行った件数 目標値:12件 実績値:77件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・想定したよりも多くの相談を受け、地域における保存環境の改善に協力することができた。</li> <li>・各年度で増減があると考えられるが、目標値について精査する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を達成しており、達成度4と評価した。</li> <li>・レファレンスカウンターの運用方法が平成30年4月から変更になっているが、相談しにくい等の支障がないよう配慮して欲しい。</li> </ul>	
5 三重に関する資料や、博物館活動の学術的価値づけとその意義を伝えるために、総合博物館の強みを活かした研究に取り組みます(研究)	3	協議会委員によるレビュー		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに館内での発表機会を設けるなど、研究活動の推進に向けた取組を行うことができたが、定例化に課題があった。</li> <li>・参加型調査も幅広い年代・地域からご参加いただいたが、遠方からの参加に課題があった。</li> <li>・収蔵資料データベースは、継続して資料整理を進め、閲覧利用の活性化を図りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学芸ゼミの開催など、研究推進に向けた意欲的な取組が見られたため、達成度3と評価した。</li> <li>・「総合博物館の強みを活かした研究」というのが、非常に高度で難しい課題。館内だけでなく、県内大学等の連携機関とも協力し、研究活動を推進して欲しい。</li> </ul>	12	1	学芸員による研究活動を推進するために、定期的な発表機会を設けます	学芸ゼミによる発表件数 目標値:12件 実績値:4件	外部への成果公表件数(論文・学会発表など手法や形式は自由) 目標値:3件 実績値:21件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学芸ゼミは年間計画を立てずに行っていたため、定期開催には至らなかった。</li> <li>・成果公表の形式を精査し図録執筆や外部講師なども含めたため、計画時よりも件数が大きく上回った。</li> <li>・博物館活動の研究も進めることで、一部の職員だけでなく嘱託学芸員も含めた学芸員各自がそれぞれの力を発揮できるように研究活動を位置づける必要がある。</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を達成していないため、達成度1と評価した。</li> <li>・一般の方やミュージアムパートナー会員も交えた公開ゼミの開催についても検討して欲しい。</li> <li>・「定期的」に開催することを心がけること</li> <li>・アウトカムの指標と目標値については、精査が必要。</li> </ul>
												13	4	多様な主体が研究に参画するために、参加型調査を行います	調査への参加者数 目標値:60人 ※公開調査の協力者数については目標値に含まず別記する。 実績値:89人	参加者の属性(年齢・居住地)の多様性 年齢は10~70代、地域は津市を中心に県内各地からの参加者があった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミュージアムパートナーとの調査以外にも、移動展示に関連した調査を行うことができた。</li> <li>・遠方の地域からの参加については、継続して考慮していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を達成しており、達成度4と評価した。</li> </ul>	
												6 MieMuが利用者にとって知的好奇心を心地よく刺激する場となるように、学習支援機能の向上に努めます(学習支援)	4	アンケートの自由記述から、MieMuを一言で「学習・学びの場」であると回答した割合 目標値:10% 実績値:11%		<ul style="list-style-type: none"> <li>・当館の利用について、自身の学びに繋がっていると回答した方が目標値を上回った。</li> <li>・各戦術以外にも、企画展内でわかる展示やワークシート等の工夫を行った。</li> <li>・アンケートの回収率については、増やせるよう対策を講じる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を達成しているため、達成度4と評価した。</li> <li>・目標の「知的好奇心を心地よく刺激する」という表現は抽象的過ぎるので、削除すべき。</li> </ul>	15	
16	3 ↓ 2	学校利用を促進するために、学校や教員を対象とした学習支援プログラムを行います	利用学校数 ※アウトリーチも含む 目標値:230校 実績値:226校 (他、教員向け出前講座 3回)	利用した教員の満足度 目標値:90% 実績値:88% (「満足」「やや満足」で100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前から課題になっていたワークシートを難易度別に3種類作成し、ホームページからも利用できるようにした。</li> <li>・アウトリーチは積極的に広報していないため、元々つながりのある職員が依頼を受ける傾向にあり、偏りがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を達成していないため、達成度2と評価した。</li> <li>・アウトプットの指標については、「利用学校数」でなく「プログラム利用学校数」が妥当。</li> <li>・ワークシートなどを効果的に利用してもらえようとして、教員の使い勝手なども調べるとよい。</li> </ul>													
							17	1 ↓ 2	事業を日常的に確認し改善するために、定期的に進捗管理を行います	確認によって判明した課題の件数	事業の達成度合い 目標値:60% 実績値:0%								<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略目標の策定が遅れたため、定期的な進捗管理を行うことができなかった。</li> </ul>
7 経営資源を効果的に配分するために、評価制度を活用して事業を選択します(経営)	2 ↓ 3	各事業のコスト・パフォーマンスの改善(定性)(副館長レビュー)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織体制の変更や、レファレンスカウンターの運用方法の見直し(業務削減)等を行うことができた。</li> <li>・展示会数の縮減など、以前の指摘を反映させることができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示会数の削減や、レファレンスカウンターの見直しなどを議論することができたため、達成度3と評価した。</li> <li>・上記の改善の結果が現れるのは平成30年度だが、方針を決定するプロセスも含めて評価した。</li> </ul>	17						1 ↓ 2	確認によって判明した課題の件数	事業の達成度合い 目標値:60% 実績値:0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略目標の策定が遅れたため、定期的な進捗管理を行うことができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な進捗管理までは至らなかったが、平成28年度までの指摘にある展示会数の削減など一定の取り組みが見られたことから、達成度2と評価した。</li> </ul>			

【達成度】(※4段階評価:1. 達成できていない(20点以下)、2. どちらかというと達成できていない(21~49点)、3. どちらかというと達成できた(51~79点)、4. 達成できた(80点以上)、×. 評価できず)

※(ア)はアンケートによるデータ収集

戦略目標	達成度	戦略を評価するための指標
		アウトカム(成果)

評価結果	
各戦略の内部評価概要	外部評価

戦術	達成度	戦術を評価するための指標	
		アウトプット(結果)	アウトカム(成果)

評価結果	
内部評価	外部評価

○戦略外の評価項目

・評価士による評価制度に対するレポート

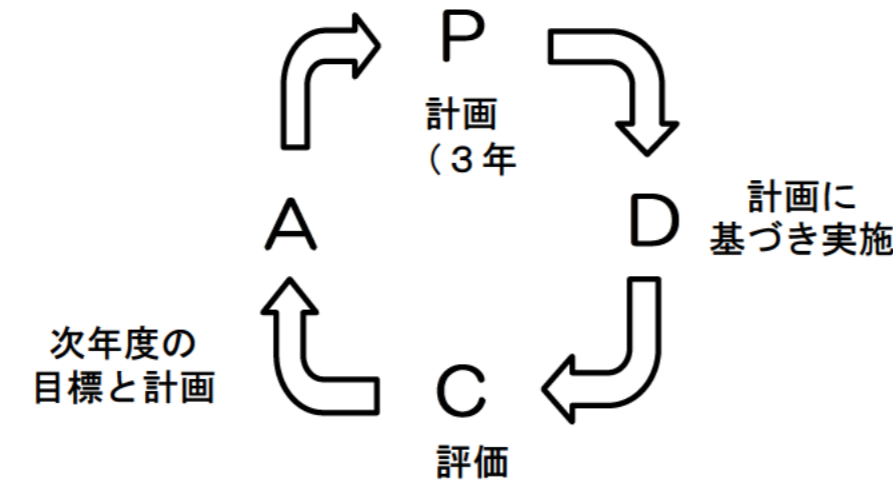
○用語

・戦略目標： 計画期間中、重点的に目的を持って取り組むこと  
 ・戦術： 戦略目標達成のために、具体的にに取り組むこと

○評価体制

内部評価： 内部評価委員会(小川・山口・中村・星野・間瀬)  
 外部評価： 博物館協議会評価部会(外部委員を含む5名)  
 評価結果を報告、意見聴取  
 →博物館協議会へ報告

○マネジメントの仕組み



○評価のプロセス

評価者の階層	①自己点検評価 →	②内部評価 →	③外部評価
評価者	館担当課・者	館内部評価委員会	博物館協議会評価部会
評価作業内容	・指標データ整理 ・評価結果(価値判断)	・評価結果(価値判断) ・改善視点	・評価結果(価値判断) ・改善視点